神奈川県海外技術研修員の研修報告

JECK側研修受入れ世話人 理事　福田 信一郎　菊池 正夫

JECKが推薦し、神奈川県海外技術研修員として来日したMr. Hassan Albearkouli、Ms. Subia Pico Claudia Mabel両氏は所定の研修を修了して3月15日に帰国しました。両氏は、研修以外にも神奈川県国際研修センターでの「センター・デイ」、東日本津波被災地でのボランティア活動、JECK会員宅へのホームステイ等を通じて、日本及びこのプログラムに参加した諸国の研修員とも国際交流の実績をあげています。

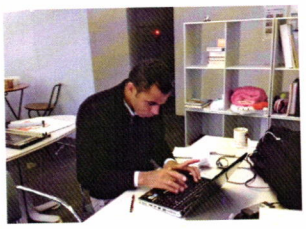
センター・デイのパフォーマンス

Mr. Albarkouli の寄稿、及び Ms. Mabel についての菊池理事の報文により、両氏の研修状況の報告と致します。

このプロジェクトを企画し、実行された神奈川県、神奈川県国際研修センター、研修を受け入れていただいた慶應義塾大学、七沢学園その他の関係者にJECKからも深く謝意を表します。

日本での研修生活　(Hassan Albarkouli)

私は、日本へ来る前に、リビア政府で5年間勤務後、交通システム工学について学びました。日本の優れた技術を導入してリビア開発に役立てたく日本へ来ました。大学で研究していた時から、ビジネスか仕事で日本へ来ることを想像していましたが、リビアの教育水準は日本ほど高くないので、まさか日本で研修することになるとは考えていませんでした。


慶應義塾大学藤沢キャンパスにて

私は、慶應義塾大学藤沢キャンパス(SFC)で、中島准教授の指導で都市計画について学びました。そしてリビアの首都のトリポリが直面している交通トラブルについても議論しました。慶應大学での研修期間中イスラムの専門家であり、アラブ諸国学術協力会の奥田教授に支援して頂き、SFC研究所上席所員小林周氏の全面的な援助を受けました。

この研修プログラムに参加した各国の研修員と兄弟・姉妹の様な生活をしました。またスタッフはいつも私たちの面倒を見てくれました。一緒に研修したり、旅行したり、各国の伝統的な衣装を着てパフォーマンスをした「センター・デイ」の行事や、東北地方の津波被災地でのボランティア活動等の思い出は忘れられません。また、これらの行事等を通じて、参加各国研修員及び日本人スタッフとの国際交流を図ることが出来ました。

慶應義塾大学藤沢キャンパスで
中島准教授と討議

日本の最善の経験はホームステイでした。日本の文化について学ぶという機会も得ました。名所・旧跡を見学し、私の為に特別な食事も用意して頂きました。

私の研修についてJECKメンバーの支援に感謝します。多くのJECKメンバーと意見を交換し貴重な時間を持てました。私は今後JECKとリビアとの交流に努力するつもりで帰国後、私はリビア政府で国の開発に従事する予定です。日本での研修内容を報告し、私の博士論文に反映しようと考えています。私は、リビア-日本の特に教育分野での協力関係を支援したいと思います。最も重要なことは、日本の専門家の支援により、リビア人技術者のスキルを向上させて、完全な仕事、優れたインフラ開発を行いリビア政府をサポートすることです。

私は日本での生活で、沢山の新しい教育、知識を得ました。すべての場所で、新しい物を見つけました。来日前、私は高度のテクノロジーとインフラの開発がされた日本が好きでした。今は私が会った素晴らしい人がいる日本が好きです。　(要訳:大平)

海外技術研修員、クラウディアさんの技術研修報告

理事　菊池正夫

県の海外技術研修員、Ms.Claudia Mabel (23才)は南米エクアドルの首都キト市にあるカトリカ大学でIT技術を専攻した若いエンジニアで、彼女の勤務していたF.I.N.E.で看護技術を発展・普及させるためのイベント企画などを担当してきた技術スタッフです。

エクアドルでは、近年身体障害児や認知症の高齢者、交通事故によって下半身不随になった若者などが増加しており、先進国である日本の介護技術や、リハビリテーション技術を実務研修し、学ぶことを目的として来日しました。

研修先は厚木市の郊外、大山山麓の七沢地区にある県の総合リハビリテーションセンターで、介護・リハビリテーション技術の基礎と実務研修を昨年10月から行ってきました。

彼女は帰国後、彼女が所属しているボランティア団体と母校のカトリカ大学との協同プロジェクトの主要メンバーの一人として活躍することが期待されており、彼女の得意とするIT技術を活かして介護機器や介護ロボットの海外からの導入や将来の自主開発に備えて、この技術分野の日本での研究開発状況を調査・見学することを来日する前から、特に希望していました。

そこでJECKの人脈を活かして訪問先と交渉を行い、訪問調査のプログラムを作成して、下記のようなJECK独自の技術研修の機会を提供、技術通訳などをかつて出て、大変喜ばれました。

(1)神奈川県高齢福祉課が主催した「介護ロボット普及推進フォーラム」への参加。認知症患者の様々な呼び掛けに応える、アザラシの縫いぐるみ型ロボット"パロ"等の見学・体験会へ2回参加して大変興味深かったとのことでした。会場:厚木市内のホテル(10／29)、県立保健福祉大学(11／11)

高齢者の心の癒しに効果的と好評な「パロ」との会話体験

(2)普通の車椅子を電動式に改造するための電動ユニットの開発・実用化状況の調査。訪問先:静岡県磐田市、ヤマハ発動機の技術開発センター(2／20)ユニットの本体への取り付け制約条件、現地生産の可能性などの調査と試乗体験。開発製品展示場では農薬散布用無線操縦小型ヘリなども見学しました。

手の振りを視覚センサーで取込んで
微細な制御を可能にした車椅子のテスト

(3)神奈川工科大学ロボットメカトロニクス学科小川研究室訪問(2／25)視覚センサー付き特殊車椅子の開発状況とIT技術を適用した、各種介護設備の展示場,学生が利用できる"カイト工房"などを見学することができました。

編集後記

20号は、会報初めての8ページ建てでお送りします。
今年が、JECK創立10周年になるので、記念シンポジュウムを開き今までのJECK10年のあゆみを振り返り、これからの在り方を論じました。JICA横浜の吉浦所長にも参加頂きました。紙面から充実した討議を感じていただけるかと自負しています。6月のアフリカ開発会議(TICAD V)に因み、アフリカを特集しました。写真家の今村氏からの寄稿もありました。深謝します。
初めての試みとして、会員の意見、主張の発表の場として「JECK論壇」を作りました。シリーズとしたいので、会員の投稿をお待ちしています。

JICA帰国専門家連絡会かながわ会報　第20号
発　行　2013年3月31日
発行者　JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)
事務局　横浜市中区新港2-3-1
JICA横浜国際センター3F　国際協力連絡室内
(URL:http://www.jeck.jp/)
植岡 龍太郎(e-mail:ueokaf@ybb.ne.jp)
編集委員会　佐藤満寿哉(編集責任)
大平一昭、植岡龍太郎、小泉由紀子
印　　刷　横浜リテラ　(URL：http://www.yokohamalitera.com/)
(e-mail：info@yokohamalitera.co.jp)
横浜市戸塚区上矢部町1965-4